

よりよい福祉に向けて、 地域と繋がる活動に邁進する介護士さん

地域活動

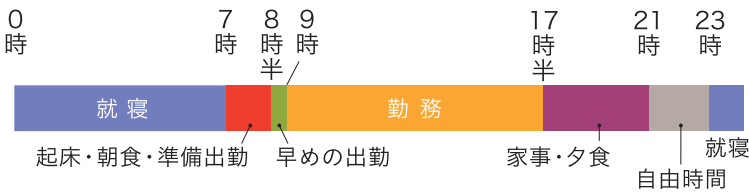
中平千愛さん / 39歳

小規模多機能・ハーモニー香椎下原 管理者

キャリア

20歳頃	トリマー、動物看護師となる
27歳頃	ヘルパー2級を取り、登録ヘルパーとなる
30歳頃	小規模多機能の主任となる
35歳頃	小規模多機能の管理者となる

ある日の1日



- わが子がきっかけで福祉に関心を持つ
- 地域と繋がることで、いい支援ができ、利用者さんに気持ちよく暮らしてもらえる
- いい仕事をするために気持ちを切り替え、オン・オフをはっきり分ける

福祉の仕事をする前は何かをしていた？

— トリマーと動物看護師を5年経験

出身は鹿児島県です。トリマーと動物看護師になるため、専門学校への進学で福岡に出てきました。卒業後は、トリマーや動物看護師など、動物関係の業界で20歳から5年ほど働いてきました。動物看護師の時は動物病院勤務なのですが、トリマーになるとペットショップに勤務することが多いんです。特に、大きなショッピングモールに入っているペットショップは、勤務時間が不規則で、シフトがあるようで無く、土日祝日や、正月もないほど多忙でした。お店自体が閉まるのも遅いので、2人目を妊娠した時に、上の子の保育園に合わせてシフトを組むのが難しいなと思い、楽しい仕事でしたけど、辞めることにしました。

— 子どもがきっかけで、福祉の道に関心を持つ

息子は、言語障がいと軽度の発達障がいがあります。育てていくうえで、どうしたらいいのかな、と考えを巡らせることは日常的にありました。なので、もともと児童福祉には興味を持っていました。次の仕事は何をしようかな、と考えた時、自然と福祉の道に進むことを考えていました。ただ、児童福祉だと大学に行かないといけなくて、高齢者の方から入ってみようと思いました。

それでヘルパー2級を取る学校に行き、資格を取りました。その翌月には今の会社に入社していました。もともと在宅が好きで興味もあったので、施設勤務ではなく登録ヘルパーを選びました。勤務時間が子供の都合に合わせてくれるのも良かったです。

福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 地域と繋がることでよりよい福祉が実現



1番最初は、とても背の高い認知症の方の支援に入りました。会話では意思疎通が取れませんが、いつもニコニコされている方でした。言葉のキャッチボールができない分、ご利用者さんの表情や様子を観察すること、小さな変化に気付くことの大切さを身に染みて感じました。完璧な支援ができていない私に対して、くしゃくしゃの笑顔で「ありがとう」と言ってくれた時の喜びは、今でも覚えています。

小規模に異動してからは、地域活動の大切さを痛感しています。地域活動をすることで、私たち自身が、利用者さんの活動や視野を広げることができます。これは、支援を必要とする誰もが、地域の一員としてこれまでと変わらず暮らしていくために必要な活動だと考えています。近所の方や子どもたちへの挨拶から始め、公民館活動、文化祭への作品出展、サロン活動など、取組は様々です。最近では、子どもたちが回覧板を持ってきてくれるのが嬉しいですね。

仕事以外はどんな生活している？

— 日常から非日常へ、オン・オフの切り替えを大切に

仕事をする上で、オン・オフの切り替えを大切にしています。反省は必要だけど、失敗をいつまでも引きずる必要はないと思っています。仕事に子どもは関係ありませんが、いったん家に帰れば、子どもや自分の時間に充てたいし、仕事以外にも考えなきゃいけないことはたくさんありますから。

休みの日は、非日常を味わうため、仕事の電話は、「受けるけど自分からはかけない」とマイルールを決めています。普段会わない友達と会い、お酒を飲んで楽しむ時間を大切にしています。今は会うのが難しいので、オンライン飲み会や電話をよくします。あとは、糸島が好きでよく行きます。お野菜を買ってきて、おつまみを作ったりもします。

上の子が大きくなったので、朝食の準備や洗濯もやってくれます。私が仕事を続けられるのは、子どものおかげです(笑)



取材を終えて

子どもが小さい時には、よく施設に連れて行っていたと話す中平さん。真っすぐ思いを貫くお母さんの背中を見て育った結果でしょうか、息子さんは現在、福祉や医療に関する勉強をされているそうです。